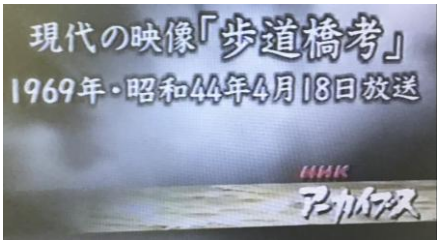
NHK 現代の映像「歩道橋考」

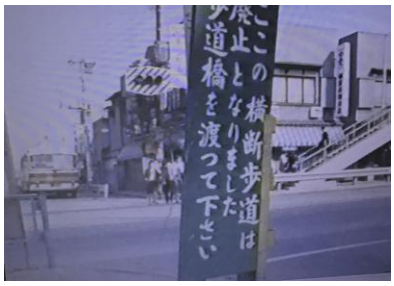
たまに現役時代のように、教室で学生さんの前で講義をしたくなることがある。大阪市立大（どうも大阪公立大とは呼びたくない？）に行ったとき、教室に誰もいないと、昔を思い起こして教壇に立つことがある。これも 35 年にわたる教員生活の「後遺症」だろうか。

名古屋市立大で人文社会学部現代社会学科の「現代都市問題」という講義を担当してきたが、学生さんが関心を持ちそうな映像をよく使わせてもらった。なかでも NHK 現代の映像の「歩道橋考」(1969 年)は、現代都市問題、車優先社会を考えるうえで貴重な映像であり、学生さんにも好評だった。



じつは自宅に数多くの DVD がある。東日本大震災や原発事故など、テレビ番組を録画したものが多い。引っ越し「騒動」などでも大切にしてきた。すこし整理（断捨離）をはじめたとき、「歩道橋考」の DVD が出てきた。懐かしさのあまり、つい映像を見てしまった。こんなことをしていたら断捨離などできないが、やはり映像は「エイゾー」なのだ。

番組は冨田勲さんによるテーマ曲から始まる。これが「現代の映像」という番組に合っていて、なんだかワクワクしてくる。そして、早朝の東京渋谷の歩道橋が映し出される。1 段 15 センチ、36 段の階段を昇り降りする、巨大な歩道橋。朝のラッシュで歩道橋を足早に行き交う人びと。歩道橋は車の通行をスムーズにし、都市の経済活動を効率よくする手段。「交通安全」に欠かせない社会資本として整備されてきたが、欧米諸国では、ほとんど目にしない施設である。



東京調布の横断歩道が廃止され、歩道橋になった様子、大分市で歩道橋をめぐる裁判へと、番組は展開していく。足の不自由な人が歩道橋を利用せず、道路を横断していて事故にあった裁判である。この人は歩道橋を渡らないのではなく、渡れないのだ、というナレーションが忘れられない。

「現代都市問題」の講義で、この番組を素材にして歩道橋についてのコメントをよく書いてもらった。学生からは、歩道橋は交通安全のために欠かせない施設、お年寄りや身体の不自由な人たちの「利用できない」ことへの配慮が必要、現代文明や車優先社会への警鐘など、考えさせられる意見が多かった。

（2022 年 4 月 14 日）